

2023年8月9日

IPCCの次期評価報告書（AR7）に向けた我が国の課題について

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
坂本敏幸¹

7月25日～28日、ナイロビにおいてIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第59回総会が開催され、次期第7次評価報告書（AR7）に向けてBureauメンバーの選出が行われた。本稿では、そもそもIPCCがどのような仕組みとなっているかを紹介しつつ、AR6の執筆者陣において欧州のプレゼンスが極めて高かったことを明らかにし、AR7に向けた我が国の課題について論じたい。

1. IPCCのガバナンス

IPCCにおいて重要な役割を果たすのがBureauである。その目的は、「パネルの作業の科学的・技術的側面に関しガイダンスを与えるとともに、関連するマネジメント及び戦略的課題にアドバイスし、そのマンデートの下で特定の課題に関し意思決定を行う」とされている。後述する評価報告書の執筆者についても、Bureauは「専門性、地理的分布及び性別を考慮し、authors, review editors, expert reviewersのリストを作成し合意する」とされている。

Bureauは以下の34名から構成されることが内部規則により決まっており、今回の選挙の結果は以下のとおりとなった。

- ・IPCC議長（1名）：英国
- ・IPCC副議長（3名）：タンザニア、ハンガリー、キューバ
- ・第1作業部会（自然科学的根拠）共同議長（2名）：フランス、中国
同副議長（7名）：ガーナ、セネガル、ネパール、アルゼンチン、カナダ、インドネシア、スイス
- ・第2作業部会（影響・適応・脆弱性）共同議長（2名）：オランダ、シンガポール
同副議長（8名）：バハマ、ガンビア、ケニア、インド、チリ、ベネズエラ・ボリバル、ラトビア、オーストラリア
- ・第3作業部会（気候変動の緩和）共同議長（2名）：米国、マレーシア
同副議長（7名）：ノルウェー、トルコ、ドイツ、ペルー、サウジアラビア、アルジェリア、コンゴ
- ・インベントリータスクフォース（TFI）共同議長（2名）：日本、パキスタン

実は、IPCC議長を除く上記33名の地域バランスも、予め以下のとおり内部規則によ

¹ 本稿は、中村博子主任研究員の協力を得て作成された。

り決まっており、当然ながら上記選挙結果も以下の地域バランスと完全に符合する。

- ・ Region I（アフリカ）：7 positions
- ・ Region II（アジア）：6 positions
- ・ Region III（南米）：4 positions
- ・ Region IV（北中米・カリブ）：4 positions
- ・ Region V（南西太平洋）：4 positions
- ・ Region VI（欧州（ロシア、トルコ等も含む））：8 positions

新たな Bureau における欧州比率（トルコを除く）は、今回 IPCC 議長が韓国から英国に替わったので、前体制と比較すると1名増えて34名中8名、21%から24%となった。

2. AR6 の執筆陣における欧州のプレゼンス

今年3月に統合報告書が公表された AR6 の執筆者陣（CLA、LA、RE²）を見ると、表1のとおり欧州比率は、各作業部会とも3分の1以上、世の中の注目を最も集める統合報告書の執筆者も3割となっており、Bureau の欧州比率21%よりかなり高い。中でも重要な役割を果たす CLA だけを見ると、欧州比率は、第1作業部会と第3作業部会においてそれぞれ5割、4割程度と圧倒的プレゼンスである。

表1 AR6 の執筆陣における欧州比率

	第1作業部会	第2作業部会	第3作業部会
執筆者全体 (CLA、LA、RE)	35% (234名中82名)	33% (330名中109名)	36% (239名中87名)
CLA	52% (31名中16名)	24% (46名中11名)	41% (34名中14名)
統合報告書 Core Writing Team	30% (30名中9名)		
【参考】Bureau	21% (34名中7名)		

(注) AR6 の各作業部会等の執筆者リストから筆者が作成。各CLA、LA、Bureau には、ロシア、トルコ、イスラエルが含まれ、これらの国々は IPCC の内部規則上「EUROPE (Region VI)」となるが、上記欧州比率ではカウントしていない。

² CLA (Coordinating Lead Authors)：章毎に2～3名任命される。章全体の調整に当たる。先進国と途上国の組み合わせとなることが多い。

LA (Lead Authors)：章毎に任命され、執筆の中心的役割を担う。

RE (Review Editors)：章毎に2～3名任命される。レビューアーの選定など、レビュープロセスをサポートする。

この他、LA が任命できる CA (Contributing Authors) は、特定分野の専門性、知見により LA をサポートする。CA の数は、LA より多い。

無論、日本人も健闘しており、AR6の第1、第2、第3作業部会にはそれぞれ9名、9名、15名の執筆者が送り込まれた。しかし、日本人のCLAは、第2作業部会の2名のみであり、日本人の統合報告書の執筆者はゼロである。表2を見ると、日本は、英米並みとまでは行かないまでも、中国やインドと比較するとさらなる貢献の余地はあると言えるのではないか。

表2 AR6における主要国の執筆者数

	第1作業部会 (総数234名)	第2作業部会 (総数330名)	第3作業部会 (総数239名)	統合報告書 (総数30名)
日本	9名	9名	15名	0
中国	15名	10名	13名	1名
インド	6名	17名	12名	3名
英国	24名	26名	20名	2名
ドイツ	8名	19名	14名	2名
フランス	11名	10名	7名	1名
スイス	5名	11名	3名	0
オーストラリア	14名	22名	10名	2名
カナダ	8名	10名	6名	1名
米国	26名	40名	24名	3名

(注) AR6の各作業部会等の執筆者リストから、いずれかの作業部会に10名以上の執筆者(CLA、LA、RE)を送り込んでいる主要国について筆者が作成。日本は、海外機関の日本人を含め、日本機関の外国人は除いて集計。日本以外の国は、国籍(citizenship)ではなく国(country)で集計。

3. AR7に向けた我が国の課題

言うまでもなく IPCC の評価報告書は、これまでも世界の気候変動問題への取組に大きな影響を及ぼしてきた。例えば、1990年のFAR(第1次)は92年の気候変動枠組条約の採択に、95年のSAR(第2次)は97年の京都議定書の採択に、2014年のAR5は15年のパリ協定の採択に、それぞれ大きなモーメントを与えたと言えよう。そしてAR6は、次期2035年目標の各国のNDCの方向性に大きな影響を与える。

IPCCは、それ自身が研究をしているわけではなく、ガイダンス文書に則り、世界の科学者が発表した査読付きの論文などを集め、その「証拠の種類、量、質、一貫性」に、執筆者間の「意見の一致度」も加味して方向性を整理している。一定の見解を支持する論文の数が多ければ多いほど、その見解に関する高い確信度の評価が得られやすくなっている。

欧州の主要国は、EUレベルや自国政府の予算も使って、中長期的な観点から自国の研

究機関に研究者を育て、その政策方針に沿った論文の発表を促し、IPCCの執筆者として送り込み、IPCCに間接的に影響力を及ぼしているとも言われる。要するに、欧州の研究者は、自ら論文を執筆しつつ、IPCCの執筆陣として、自らの論文も含めて評価もしていると言えるのではないか。そして、執筆陣における欧州のプレゼンスの高さは上述のとおりである。IPCCが欧州の論調を色濃く反映しているとの声も聞かれるが、このような背景もあるのだろう。これは決して欧州を批判するものではなく、欧州がIPCCに中長期的観点から戦略的に対応していると見るべきであろう。

今後、パネルにより AR7 の outline が検討、承認され、その後執筆者の各国政府及びオブザーバー機関からの nomination が受け付けられる。AR5 の際は、4.3 倍の競争率であり、狭き門とも言える。日本人の場合、英文査読論文の実績がハードルとなる。執筆者に選ばれても、IPCC から人件費が支出されるわけではなく、所謂手弁当での貢献である。

しかし、気候変動問題が今後とも、政策のみならずビジネスにも大きな影響を及ぼすことを踏まえれば、当研究所自身も奮起しなければならないことは当然として、大学、国立研究所はもとより、産業界も含めて IPCC の執筆者を AR7 に積極的に nominate し、かつ、中長期的な観点から育成していくことが必要ではないか。特に、第3作業部会（気候変動の緩和）については、LA のみならず CLA を送り込み重要なチャプターへの関与を強めること、統合報告書の執筆者チームに参画することが重要と考えられる。いずれにしても、政府による継続的な支援が不可欠であることは言うまでもない。

<参考文献>

IPCC Bureau の選挙結果：[気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第59回総会の結果について（METI/経済産業省）](#)

IPCC Bureau の TOR（Terms of Reference）：[Twenty_Eighth Session \(ipcc.ch\)](#)

IPCC Bureau の選挙手続き：[ANNEX III \(ipcc.ch\)](#)

AR6 第1作業部会の執筆者リスト：[IPCC Authors \(beta\)](#)

AR6 第2作業部会の執筆者リスト：[IPCC Authors \(beta\)](#)

AR6 第3作業部会の執筆者リスト：[IPCC Authors \(beta\)](#)

AR6 統合報告書 Core Writing Team：[IPCC Authors \(beta\)](#)

執筆者へのガイダンスノート：[Uncertainties Guidance Note - IPCC AR5](#)

お問い合わせ: report@tky.ieej.or.jp